

長浜市地域福祉計画検討委員会 令和7年度第2回会議 概要録

令和8年3月11日（水）10:30～12:25
長浜市役所本町3階 特別会議室

1 開会

事務局より開会し、部長があいさつ。

本日の議題が多いため、説明は要点を絞り、意見交換の時間を確保しながら進行する旨を説明。

2 第3期長浜市地域福祉計画に係る事業の進捗状況について

事務局より、第3期長浜市地域福祉計画に係る事業の進捗状況について説明。

【主な質問・意見】

■ 子育て支援アプリ「ながまるキッズ」について

- 子ども若者会議でも、アプリが使いにくいとの声があることから、改善の方向性について質問があった。
- 事務局から、情報量が多く、必要な情報を選びにくいことが課題であると認識しており、来年度中のリニューアルを検討していること、利用者が必要な情報を選択して受け取れる仕組みを検討していることを説明。

3 志でつながる支えあいの地域づくり事業に係る取組状況の報告について

社会福祉協議会より、志でつながる支えあいの地域づくり事業に係る取組状況について報告。

【主な質問・意見】

■ 志でつながる支えあいの地域づくり事業の進め方・成功要因について

- 取組がどのような出合いやつながりから始まるのか、また、他地域や他分野にも広げていくために、成功要因が見えるようにしてほしいとの意見があった。
- 社会福祉協議会より、地域福祉コーディネーター等が地域での出合いやつながりをつくり、当事者の思いや熱量を支えることが活動の推進につながっていると説明。
- 座長から、分野横断のつながりや新たな展開を生み出す上で、コーディネーターの役割は重要であり、相互の連携も大切であるとの意見があった。

4 第4期長浜市地域福祉計画の策定について（アンケート結果および骨子案）

事務局より、第4期長浜市地域福祉計画の策定に向けて、市民・団体アンケート結果、課題整理、骨子案等について説明。

5 意見交換

【主な質問・意見】

■ アンケート結果の見方について

- 市民アンケートについて、回答者の年齢層や年齢別の傾向が気になるとの意見があった。
- 事務局より、配布時には年代が偏らないよう抽出したが、回収は高齢者層が多く、70歳以上の回答割合が最も高かったこと、必要に応じて年齢別クロス集計の追加も検討する旨を説明。

■ ケアラー支援について

- ヤングケアラーに限らず、障害のある家族を支える人、ダブルケア、遠距離介護なども含めた広い意味でのケアラー支援が必要ではないかとの意見があった。
- あわせて、他自治体の動向も踏まえ、ケアラー支援条例の制定に向けた検討も必要ではないかとの意見があった。
- 事務局より、骨子案ではヤングケアラー等を例示しているが、素案作成段階ではより広いケアラー支援の視点も踏まえて検討したい旨を説明。

■ 多文化共生・外国人支援について

- 外国人住民の高齢化や生活課題の多様化が進む中で、多文化共生や外国人支援の視点を第4期計画でもより重視すべきとの意見があった。
- 特に、言葉・文化・制度などの壁がある中で、災害時対応や相談支援、日本語を学べる環境づくり、地域との関係づくりが重要であるとの意見があった。
- また、広報紙や各種チラシについて、多言語での情報提供を充実してはどうかとの意見があった。
- 事務局より、多文化共生の視点は第4期でも引き続き重要と考えており、各課との連携も含めて整理していきたい旨を説明。また、重要な情報については一部翻訳し配布しているが、今後さらに周知を広げていきたい旨を補足。

■ 計画の表現・考え方について

- 骨子案に見られる「やさしいまちづくり」などの表現について、「尊重し合える」「認め合える」といった表現や、包摂、インクルーシブの考え方をより前面に出した方がよいとの意見があった。
- また、地域福祉において「支援する側／支援される側」という構図が固定化されないよう、表現や考え方を工夫すべきとの意見があった。
- 事務局より、委員意見を踏まえ、表現や考え方について今後検討していきたい旨を説明。

■ 「つながりやすい相談支援体制づくり」及び重層的支援体制整備事業の表現について

- 骨子案で新たに示された「つながりやすい相談支援体制づくり」について、なぜその表現としたのか、また「重層的支援体制」という言葉が市民にとって分かりにくいとの意見があった。
- 「誰ひとり取り残さない」など、より市民に伝わりやすい表現を用いた方がよいのではないかとの意見があった。
- 事務局より、アンケート結果から相談につながりにくさが見えてきたことから、この視点を出したものであり、重層的支援体制の名称や見せ方についても今後検討したい旨を説明。
- 座長からは、相談体制そのものだけでなく、実際につながりやすくするための具体策を素案で示すことが重要との意見があった。

■ ライフステージに応じた地域福祉意識の向上について

- 骨子案の「ライフステージに応じた地域福祉意識の向上」という表現について、どのような根拠で整理したのかとの質問があった。
- 事務局より、アンケート等を踏まえ、年齢や立場、地域ごとの状況に応じて、自分事として地域福祉を捉えてもらう視点が必要と考えた旨を説明。
- 座長からは、担い手づくりを考える上でも、高校生、現役世代、退職後世代など、段階ごとに整理して考える必要があるとの意見があった。

■ 支援者支援・福祉人材の確保について

- 団体づくりや支援体制の充実を進めるうえでは、支援する側の負担や疲弊にも目を向ける必要があり、福祉人材の確保・育成・定着支援に本格的に取り組む必要があるとの意見があった。
- 団体アンケートの自由記述にも支援する側の課題意識が強く表れており、支援者支援の視点を計画に位置づけることが重要との意見があった。

■ 生活に困難を抱える人への支援について

- ひきこもりやヤングケアラーに限らず、家の方が過ごしやすと感じている子どもたちや、居場所につながった後の支援のあり方についても、将来的な生活困難への支援として考える必要があるとの意見があった。

■ 人とのつながりの必要性について

- コロナ禍を経て、人と人との関係が希薄になる一方、インターネットやSNSで情報が得られるため、人に相談しない社会にもなってきているとの意見があった。
- そうした状況だからこそ、顔の見える関係や人とのつながりをどう再構築していくかが重要であるとの意見があった。

■ 成果や現場の声の見せ方について

- 取組の報告については、件数や実施結果だけでなく、具体的な声や現場の実感が見えるようなまとめ方も必要ではないかとの意見があった。
- また、地域活動に参加していない人へのアプローチも重要な課題であるとの意見があった。

座長より、多くの意見を踏まえ、骨子案の修正も含めて今後素案作成を進めるよう求められた。

6 その他

政策デザイン課より、基本構想（案）について説明。

7 閉会

事務局より、令和8年度第1回会議は8月頃に素案をまとめたうえで開催予定である旨を説明。課長があいさつし、閉会した。